

市原市地域医療調査報告書（概要版）

2024年4月

調査の目的

この調査は、帝京大学ちば総合医療センター（以下、「対象病院」という。）が現在立地する姉崎地区からちはら台へ移転することを決定したことを契機に、この移転が本市の地域医療に与える影響を捉え、将来の地域医療体制の適正化を検討するうえで必要な基礎データを収集することを目的に調査するものです。

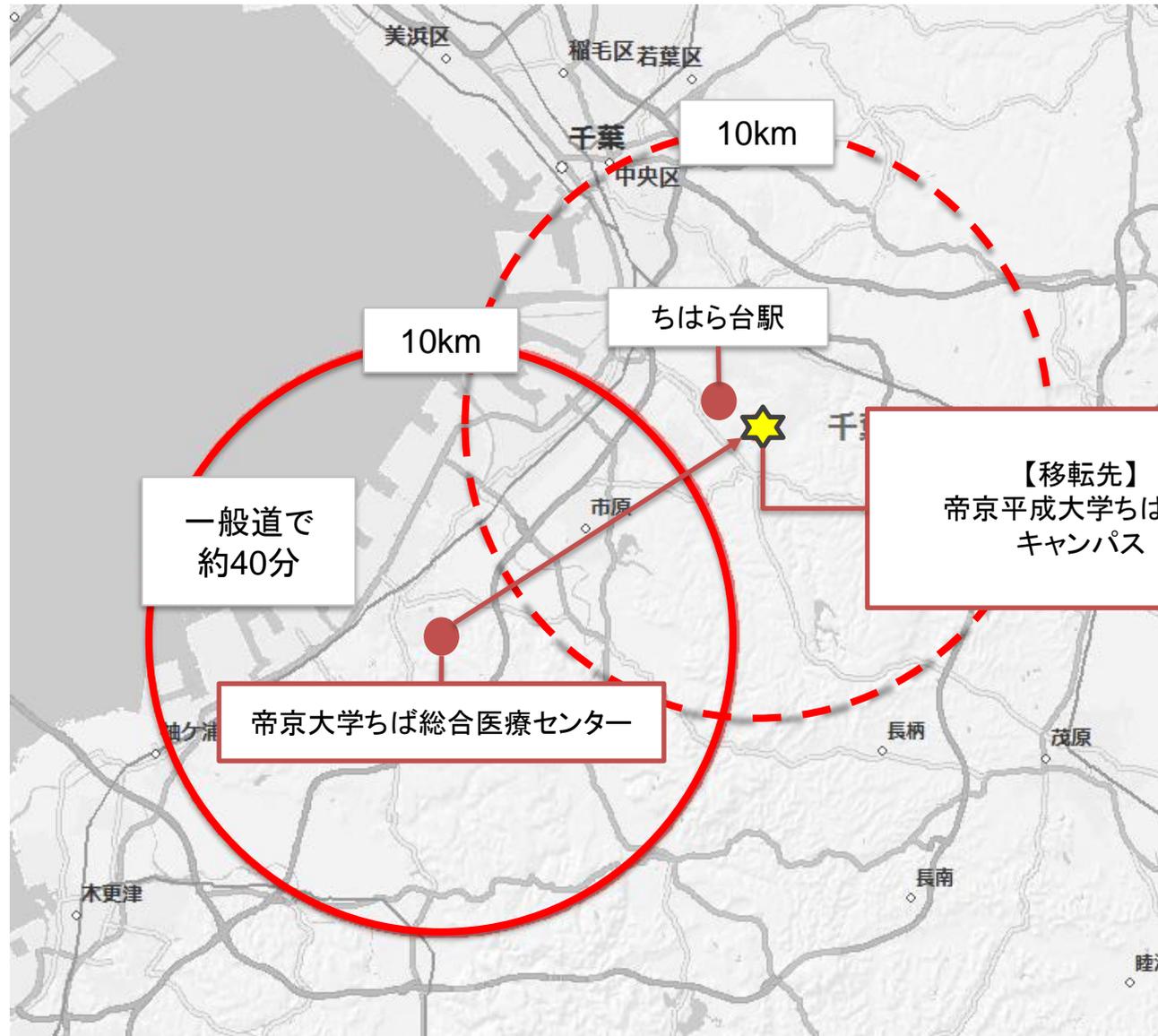
調査データの諸元

本調査を実施するにあたって、医療制度や制度改革の取組等に関する資料を厚生労働省のオープンデータ、千葉県のホームページ等から千葉県保健医療計画、病床機能報告等を収集し整理を行いました。

また、対象病院からは受療動向や救急搬送状況等のデータ提供について御協力を頂き、医療需要の現状把握や医療提供体制の分析を行っています。

移転先

- 2029年に移転を予定している帝京平成大学ちはら台キャンパスへは、車で約40分程度です。(※)
- 移転前エリア周辺の地域住民に対して影響があることが考えられます。



※移動距離と時間の定義: 対象病院から移転先の帝京平成大学ちはら台キャンパス敷地まで距離16.9km、時速30kmでの移動を想定し、約40分と試算した

病床数の試算

- 対象病院の2023年と2019年のデータより、対象病院移転後の入院需要を試算しました。
- その結果、200～230床程度の需要があるものと考えられます。

試算方法

項目	単位	計算式	2023年 (コロナ後)	2019年 (コロナ前)
対象病院の年平均1日あたり延べ入院患者数	人	a	315	350
aのうち所在地の市原市及び隣接する袖ヶ浦市の割合	%	b	81.7	81.3
bのうち、半径10km圏内の割合	%	c	86.5	84.8
対象病院及び移転先の双方から半径10 km圏内(重複部分)の面積割合の半分 【100%－(24%÷2)】(※) ※同距離の患者の半数が移転先に入院すると想定	%	d	88.0	88.0
大学病院としての高度な医療を必要とする患者を除いた割合 【100%－20.4%=79.6%】 ※高度医療を必要とする患者は移転先に入院すると想定	%	e	79.6	79.6
	人	$f = a \times b \times c \times d \times e$	155.9	169.0
病床稼働率を勘案した割合※病床稼働率を75%と仮定 【100%÷75%≒133.3%】	%	g	133.3	133.3
病床数(試算)	床	$h = f \times g$	207.9	225.3

対象病院移転後、200～230床程度の入院需要があるものと考えられます。

※対象病院及び移転先の双方から半径10km圏内(重複部分)の面積割合24%は、重複対象地区をプロットして算出した76.56km²を半径10kmの円の面積314km²(円周率は3.14として計算)で除して算出

出典: 対象病院提供資料より作成

入院/病床機能に関する調査まとめ

<p>対象病院が担う 病床機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> 対象病院は、高度急性期、急性期をメインとする病院です。 日数が長期化している患者(回復期寄りの患者)が約3割入院している可能性が考えられます。 重症度が高く、特に医療資源を投入する必要がある患者割合は約2割であると考えられます。
<p>対象病院移転後の 必要病床数</p>	<ul style="list-style-type: none"> 対象病院の1日入院患者数に対して、対象病院を中心に半径10km圏内に居住する患者割合、移転前後で診療圏が重複する範囲に居住する患者割合、大学病院の高度な医療を必要とする患者割合、を除いた、想定1日入院患者数を算出し、稼働率75%程度を想定した病床数を算出しました。 2019年と2023年の対象病院実績(コロナ前後)を使用して試算すると、対象病院移転後、200床～230床程度の入院需要があるものと考えられます。
<p>近隣病陳との 病床機能の比較</p>	<ul style="list-style-type: none"> 対象病院の半径10km圏内には対象病院の他に、9病院あります。 このうち、機能区分が急性期で、急性期一般入院料を算定しているのは4病院のみです。



- 現状、対象病院は、高度急性期20床、急性期407床を稼働病床として運営しています。
- コロナ前後の対象病院の実績から、対象病院移転後、200床～230床程度の入院需要があるものと考えられます。

外来患者の需要調査

- 対象病院の2023年と2019年のデータより、対象病院移転後の外来患者需要を試算しました。
- その結果、200～250名程度の外来需要があるものと考えられます。

試算方法

項目	単位	計算式	2023年 (コロナ後)	2019年 (コロナ前)
対象病院1日あたり外来患者数平均	名/日	a	711	854
aのうち所在地の市原市及び隣接する袖ヶ浦市の割合	%	b	84.4	82.2
bのうち、半径5km圏内の割合	%	c	44.1	44.8
大学病院としての高度な医療を必要とする患者を除いた割合 (100%－20.4%=79.6%) ※高度医療を必要とする患者は退院後の経過観察等で移転先に通院すると想定	%	d	79.6	79.6
外来需要(試算)	名/日	$e= a \times b \times c \times d$	210.7	250.3

対象病院移転後、200～250名程度の外来需要があるものと考えられます。

外来に関する調査まとめ

診療圏	<ul style="list-style-type: none"> 外来患者の居住エリアは、対象病院から半径5kmに住む患者が約4割、半径10km圏内に住む患者は約8割を占めます。
将来推計患者数	<ul style="list-style-type: none"> 対象病院周辺の外来患者数は、2025年から2050年にかけて減少傾向にあり、2035年以降は傷病分類01~21の全疾患で患者が減少する見込みです。
人口10万人あたり診療所数	<ul style="list-style-type: none"> 市原保健医療圏の人口10万人あたり診療所数は、全国平均、千葉県平均と比較して、医療供給量が少ない状況です。そのため、現在対象病院が標榜している科目を引続き対応することは、地域ニーズがあるものと考えられます。
外来患者数の試算	<ul style="list-style-type: none"> 半径5km圏内の患者から、大学病院の高度な医療を必要とする患者を除いて、外来患者の需要を試算しました。 2019年と2023年の対象病院の実績(コロナ前後)を用いて試算すると、200~250名/日程度の需要があるものと考えられます。
病床数と外来患者数の相関関係	<ul style="list-style-type: none"> 一般的に、病院の外来患者数は病床規模と相関していると考えられます。 想定される病床規模(200床~230床程度)と外来患者数(200~250名/日程度)は、周辺医療機関と比較して妥当な水準であるものと考えられます。
対象病院内の主な診療科目	<ul style="list-style-type: none"> 2023年の対象病院データで検証すると、内科、泌尿器科、産婦人科、眼科、外科、皮膚科、整形外科、耳鼻科、脳神経内科で外来の約8割を占めます。

- 半径5km圏内の患者から、大学病院の高度な医療を必要とする患者を除いて、外来患者の需要を試算すると、200~250名/日程度の需要があるものと考えられます。
- 病床数と外来患者数の相関から、試算した病床数、外来患者数は妥当な水準であるものと考えられます。
- 人口減少に伴い、外来患者数の減少が懸念されるものの、人口10万人あたり診療所数は、全国及び千葉平均と比較して少なく、今後も必要な機能であるものと考えられます。

調査結果のまとめ

項目	各項目の調査概要	今後の方向性
入院/ 診療科目	<ul style="list-style-type: none"> 対象病院の入院患者は、<u>内科、脳神経内科、外科、脳神経外科、整形外科、産婦人科</u>で入院の約8割を占めており、対象エリア内で重要な役割を担っていることがわかります。 特に、産婦人科は対象エリア内で唯一の病院であり、<u>対象病院移転により地域の病院において、産婦人科系疾患の受け皿が不足することが懸念されます。</u>(飯島マザーズクリニック、有秋台医院は有床診療所として医療機能を提供) 	 <ul style="list-style-type: none"> ◆入院/診療科目 <ul style="list-style-type: none"> 内科系、外科系について総合病院が一般的にもつ機能が望まれます。
入院/ 病床機能	<ul style="list-style-type: none"> 対象病院から10km圏内には9病院あり、うち急性期一般入院基本料を算定しているのは4病院のみです。 対象病院は高度急性期、急性期機能がメインの病院です。 対象病院の1日入院患者数に対して、対象病院を中心に半径10km圏内に居住する患者割合、移転前後で診療圏が重複する範囲に居住する患者割合、大学病院の高度な医療を必要とする患者割合、を除いた、想定1日入院患者数を算出し、稼働率を想定した病床数を算出すると、<u>200床～230床程度の入院需要があるものと考えられます。</u> 	 <ul style="list-style-type: none"> ◆入院/病床機能 <ul style="list-style-type: none"> コロナ前後の対象病院の実績から、対象病院移転後、必要とされる医療機能を試算すると、200床～230床程度の入院需要があるものと考えられます。
外来	<ul style="list-style-type: none"> <u>退院後の経過観察を目的とした通院もあることから、半径10km圏内に住む患者が約8割を占め、入院と同様の診療科目の確保が望まれます。</u> <u>2035年以降、全疾患で患者が減少する見込みです。</u> <u>市原保健医療圏は診療所が少なく、対象病院が標榜している科目を引き続き対応することは地域ニーズがあると考えられます。</u> 対象病院の1日平均外来患者数から、半径5km圏内の患者を抽出し、高度な医療を必要とする患者を除いて、外来需要を試算すると、<u>200～250名/日程度の需要があるものと考えられます。</u> 	 <ul style="list-style-type: none"> ◆外来 <ul style="list-style-type: none"> 退院後の経過観察等で通院する患者も多く、入院に紐づいた診療科目が望まれます。 規模としては、1日200～250名/日程度の需要があるものと考えられます。
救急	<ul style="list-style-type: none"> <u>対象病院は三次救急に対応しているものの、半径10km圏内の対象エリアからの搬送が70%を超えており、主な対応範囲と考えられます。</u>対象病院は、<u>周辺エリア(姉崎地区など)の救急対応において重要な役割を担っており、対象病院が移転することで地域医療に影響が生じることが考えられます。</u> 	 <ul style="list-style-type: none"> ◆救急 <ul style="list-style-type: none"> 市原保健医療圏における、二次救急体制の再構築が求められます。

2024年4月発行

発行:市原市保健福祉部保健福祉課

〒290 - 8501 市原市国分寺台中央1丁目1番地1

電話:0436-23-9768

ホームページ:<https://www.city.ichihara.chiba.jp/1stCategory?categoryId=30300000>